

《十小スタンダード及び全校で統一する取組》

◆はじめとおわりに あいさつしよう ◆必要なものだけ 机の上に ◆よい姿勢で 座ろう「ぐう ぴた ぴん」 ◆「はい」 立つ 「～です」

☆児童の実態に合った問いかけをする ☆教室前面を統一するなど、学習環境のユニバーサル化を図る ☆東京ベーシックドリルの活用

《今年度、学年として、何事にも進んで挑戦し、やる気満々の児童を育てるために系統立てて取り組むこと》

- 学習のゴールイメージをもち、問題を発見し、解決の道筋を考える。
- 学習する過程で、自分の考えを表現し、解決の方法を修正できる。
- 学び合い、考えや学び方を広めたりふかめたりできる。

授業改善に向けた教科ごとの方策 第6学年

教科名	児童の実態	学年末までに期待される児童の姿	具体的な授業改善策(箇条書き)	検証及び修正案
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・叙述をもとに、人物の心情や相互関係を考える学習活動を積んできている。</li> <li>・物語文は好きだが、説明文に対する苦手意識がある。</li> <li>・自分の考えを書くことに苦手意識をもっている児童が多い。</li> <li>・自分の考えを発言することに苦手意識をもっている児童が多い。</li> <li>・漢字のテストに向けて、意欲的に取り組んでいる児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段落要約や要旨をまとめる活動を通して、筆者の考えを読み取ることができるようになる。</li> <li>・読み取ったことや自分の考えを、叙述をもとにノートに書いたり発表したりすることができる。</li> <li>・自分の意見をもち、発言することができる。</li> <li>・友達の意味を聞き、認めることができる。</li> <li>・原稿用紙を正しく使い、既習の漢字を使用して文章を書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・叙述に即して人物の心情や相互関係を読み取る活動を続ける。</li> <li>・説明文の読み取り方、自分の考えの書き方を確認しながら進める。</li> <li>・自分の考えを発表する場を設けて、自信をもって発言できるようにする。</li> <li>・交流では、お互いに向き合うのではなく、ノートを交換し、意見や感想などを付箋に残して、考えを知り、広げる機会をつくる。</li> <li>・文章を初めて読む際、わからない言葉・難しい単語などを調べさせる時間を設ける。</li> </ul>	
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的な出来事や人物に対する関心がある。しかし、情報量の多さから混乱し、定着には時間がかかる児童もおり、個人差がある。</li> <li>・資料を読み取る力が弱く、資料をもとに課題を考える力が乏しい。</li> <li>・歴史上の内容を結び付けたり、比較したりして考えることのできない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図、統計、年表などの基礎的資料を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。</li> <li>・学習問題を踏まえ、資料を自ら選択したり、探したりすることができる。</li> <li>・学習問題を意識し、資料を活用して自分の考えをもつことができる。</li> <li>・歴史上の人物や事柄に対して、学習したことを自身の言葉でまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科資料集やパソコンからの資料を適宜利用していく。</li> <li>・資料の見方を丁寧に押さえることで、書かれていることが理解できるようにする。</li> <li>・資料からわかる事実と資料を見て考えた事柄とわかることで資料の読み取り方を理解できるようにする。</li> <li>・資料を比較したり、事柄を比較したりする習慣をつけていく。</li> <li>・児童同士の交流は難しいので、全体で考えや気付いたことを募る場面を多く取り入れる。難しい内容だけではなく、簡単なことでも、誰でも発言できる雰囲気作りをしていく。</li> </ul>	
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小数や分数を含む四則計算において、学習が定着していない児童が多い。</li> <li>・文章題や日常の場面から課題を捉える力、問題場面を捉える力が十分に備わっていない。</li> <li>・学習意欲は高いが、細かい部分で計算ミスをして意欲と能力がつかない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ベーシックドリル6年診断テスト①を実施した際に、8割以上の児童が正しく計算できる。</li> <li>・問題場面を図や表などに表し、根拠を明確にして立式することができる。</li> <li>・学習感想、(本時で学んだこと、次への課題など)を書くことができ、自己調整を図ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週金曜日の朝学習(算数)で計算問題に取り組み、計算手順を確実に理解できるようにする。</li> <li>・課題解決の授業を日々実践していく。また、自力解決の時間には、個別指導やヒントカードなど提示し、自力で解決する手立てを取り入れていく。</li> <li>・話型を提示し、それを用いて振り返りを行う。繰り返し書くことで内容を深めていく。</li> <li>・顔を向かい合わせる交流ではなく、児童同士でノートを交換し、互いの考えを知り、自分の考えを深める機会を作っていく。また、ホワイトボードや書画カメラ、を利用し、全体交流でも考えを深めていく。</li> </ul>	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習問題に対する仮説を立てる時に具体的な根拠を挙げて考える力が乏しい。</li> <li>・実験結果や観察結果から、どのように考察すればいいのかかわからない児童が多い。</li> <li>・授業を通して知識や技能を身に付けることはできている。</li> <li>・学習したことが実生活の中でどのように生かせるのか考えることができない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項や経験を根拠にしながら学習問題に対する仮説を立てることができる。</li> <li>・どのような実験をすれば仮説を立証することができるかをすすんで考えることができる。</li> <li>・実験結果から考察し、結論を導き出すことができる。</li> <li>・実験を通して学習した内容を、自分の生活と結びつけて説明したり活用したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入の際に、前学年までに学習したことに関連のあることを振り返ったり生活経験を想起させたりしてから、仮説を考える時間を設ける。</li> <li>・どのような実験が必要か手順や必要な道具などを全員で考える。</li> <li>・学習問題に対応するように、「このことから〇〇と考えられる。」という話型に沿って考えるよう指示する。</li> <li>・「理科のひろば」などを活用し、本単元で学習したことがこれからの生活でどのように生かせるか、生活にどう関係しているかを考える時間を設ける。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の運動能力に差がある。</li> <li>・「学び合いながら高めていく」という経験が乏しいため、自分たちの意見を伝えたり聞き合ったりすることが難しい。</li> <li>・自分が感じたこと、思ったことを相手に伝えることができない、何を見とればよいかかわからない。</li> <li>・体の柔軟性、俊敏性が乏しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題をもって学習を進めることができる。</li> <li>・どの児童も主体的に運動に取り組むことができる。</li> <li>・学習感想、(本時で学んだこと、次への課題など)を書くことができ、次時に向けて、個人のめあてを考えることができる。</li> <li>・自分が見たこと、感じたことを友達に伝えることができ、相手の考えを受け入れることができる。</li> <li>・自ら意見を出し、チームの特徴に応じた作戦をたてていくことができる。</li> <li>・8割以上の児童が「柔軟性」において体力テストの全国平均値より高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一時から第三時にかけて、学びのロードマップを作り、子供たちが主体的に学習を計画し、課題解決をしていく。</li> <li>・運動が苦手な児童でも楽しめるようにスモールステップを取り入れていく。また、児童同士を交流させ、伝え合い、励まし合う時間を設ける。</li> <li>・話型を提示し、それを用いて振り返りを行う。繰り返し書くことで内容を深めていく。授業の始めには、前時での良かった振り返りを紹介していく。</li> <li>・運動におけるポイントを示すことで、児童が見るべきところを分かりやすくする。</li> <li>・段階に合わせて、小グループで作戦を考えたり協力したりして活動する時間を計画的に取り入れていく。</li> <li>・準備運動や補助運動として、長座などのストレッチを取り入れる。</li> <li>・コロナ禍における状況の中、単元を入れ替え、児童同士の接触がないものから授業を行っていく。</li> <li>・児童同士の声掛けや作戦を立てる状況ではソーシャルディスタンスを保つように指導する。</li> </ul>	
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報の収集」については、インターネットを活用し効率的に集めることができる。</li> <li>・「整理・分析」をすることが難しい児童が多い。</li> <li>・「まとめ・表現」では、相手や目的に応じて効果的に表現できる児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した情報を取捨選択し、情報の傾向を見付けたり、複数の情報を組み合わせたりして新しい関係を見出すことができる。</li> <li>・整理・分析した結果や自分の考えをまとめたことを相手や目的に応じて効果的に表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた情報を分類・整理する時間を授業内に確保する。(思考ツールの活用)</li> <li>・表現する手段の選択と選択した理由を明確にさせる。</li> <li>・単元の最初に「誰に、何を伝えるのか」を明確にし、ゴールイメージをもたせてから取り組ませる。</li> <li>・身近な話題や児童の経験から興味・関心をひくような教材を設定する。</li> <li>・時間ごとに振り返りをさせ、計画の修正が必要かどうかを考えさせる。</li> <li>・コロナ対策のため、発表は時間を十分に開け、一対全体で行う。</li> <li>・コロナ禍の発表は、タブレットを使い、全体でスライドを確認できるような時間を設定する。</li> </ul>	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年間の外国語学習の積み重ねもあり、英語で話している内容について理解できる児童が多い。</li> <li>・与えられたテーマについて、学習したことを使ってスピーチしたりやり取りしたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで英語で尋ねたり、答えたりすることができる。</li> <li>・自分の考えや思いを英語で表現することができる。</li> <li>・外国の文化に興味を持ち、相手に配慮しながら、自分の考えも含めて伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間にウォーミングアップの時間に前時に学習した英語を使ったやりとりをペアで行う。(対話の時間は1分以内とし、コロナに配慮した活動を行う。)</li> <li>・イラストなど視覚的資料を充実させて、PCを活用し自ら調べたり、発表したりしながら、英語での表現を身に付けさせる。</li> <li>・日本の文化について深く理解し、それを伝えようとする態度を育てる。</li> <li>・英語を使う必要性のある場面を設定し、1時間の授業の中でたくさん英語を使わせるようにする。(交流の際は、対面での会話は2分以内とし、パーティションを利用したり、消毒をこまめに行ったり、コロナ対策をした上で活動を行う。)</li> <li>・感染予防のため、グループでの交流を減らし、個人での活動を増やす。</li> </ul>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽合奏に意欲的に取り組み、自分たちで音楽を楽しむことができる。</li> <li>・一つの活動を終えるとすぐに喋り出す傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア練習やパート練習を通して仲間同士で教え合い、合唱・合奏を作り上げる楽しさを感じられる。</li> <li>・音のマナーを守り、お互いに気持ちよく授業を受けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽の練習においては、できるだけ個別指導の時間を設け、ペアなどの児童同士の教え合いも活用する。</li> <li>・目で見てわかる合図、できたことが確認できる印、などを活用する。</li> <li>・コロナ対策のため、授業前後に手の消毒を行い、向かい合っの活動はしない。</li> </ul>	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に活動に取り組む児童が多く、自身の考えや思いを素直に作品に表そうとしている。</li> <li>・材料や用具の使い方を試しながら活動しつつも、自身の表現に生かしきれない児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えや思いを表していく上で、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどを考えながら主題を見付けることができる。</li> <li>・材料を用いたり用具を使ったりしながらその効果を確かめ、工夫して表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図工ノートを活用してアイデアスケッチを描いたり、思い付いたことをまとめたりしながら、発想や構想の時間を十分に設ける。</li> <li>・材料や用具を試す中で気づいたことや発見したことを全体で共有し、造形的な特徴の理解につなげる。</li> <li>・感染予防のため、机に衝立を設置し、授業の前後の手洗いを徹底させる。</li> </ul>	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手縫いやミシンを用いた製作では、見通しをもって製作したり、改善点を考えたりすることが難しい児童がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生的で環境に配慮した調理や後かたづけについて考えたり工夫したりできるようになる。</li> <li>・製作物や個々の技能に応じて時間の見直しをもって製作したり、工夫したりできるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間や製作状況の見直しもてるようなワークシートを作る。</li> <li>・調理実習の回数を最低限にする。調理の仕方や手順などを学習させ、トライカードを活用し家庭で調理を行うようにする。</li> </ul>	